

「孫達へ」

(匿名希望) 82歳

R大(仮名)とS亮(仮名)、元気になっていますか。

今日は、日頃から君達に伝えたいなと思っていることを手紙に書くことにしました。

今、君達には平和があり、親の愛情をいっぱい受け、何不自由なく暮らしています。

それが当たり前とっていない？

おばあちゃんの子どもの頃の話を書いてくれる？

私が3ヶ月の赤ん坊のときから、4歳になるまで、4年間太平洋戦争が続きまして。

日本のハワイ真珠湾攻撃から始まったアメリカ(太平洋周辺連合国)との戦争です。

空襲警報が鳴ると、防空壕に防空頭巾をかぶって、いり豆を一握り持って入るのです。

防空壕の中は真暗で雨の後など水浸しです。そして私の生家も降るような焼夷弾によって丸焼け、西宮は火の海になったそうです。真暗な空に火の渦巻が見え、これは今でも覚えています。

そして、広島と長崎に原爆が投下されて、両都市は一瞬にして壊滅し、たくさんの死者が出ました。このことは、君達もよく知るところでしょう。この原爆を経験したのは、世界で唯一日本だけなのです。

やがて、日本はアメリカに降伏し、終戦になりました。その後、憲法で日本はもう絶対戦争しないんだよと教えられ、子ども心に安心したものです。

終戦後の生活は衣・食・住すべて不足していました。私は破れた布靴をはいていましたが平気。ワラ草履・裸足・破れた服の子もいました。給食も粗末なもの、いつもお腹が減っていたので、全部食べました。

小学校のクラスで一人、かんな笑顔のない少し大人びた女の子がいました。両親が戦争で亡くなり、戦争孤児になってしまい、「カトリック教会少女の家」がその子の家です。

どんなに悲しく寂しく、毎日学校へ来て、親のいない家に帰っていったことでしょう。

この戦災孤児もたくさんいて「鐘が鳴る丘」という歌が流行したほどです。

この戦争でもっともっと悲惨な生活を強いられ、どれだけの尊い命がどんな思いを遺して亡くなっていったか計り知れません。

戦争して勝っても負けても何一つ得るものはなく多くの大切なものを失うのです。

その後日本は、経済成長を遂げ今、危ないながらも78年平和が続いています。私達が今の生活を送れていることは決して当たり前ではないこと、感謝することに気づかなければなりません。

露・ウクライナ戦争・難民・地球温暖化問題・コロナ禍等考えると奇しくも「世界はひとつ」と気付きます。平和で「世界はひとつ」になってほしいものです。

君達若い人が、世界に目を向け、自分の意思をしっかり持ち、二度と轍を踏まないように切に願っています。

おばあちゃん達、老いの身には皆が平和な国に生き続けてくれることを、祈るばかりです。

長々とお精読ありがとうございました。(笑)

祖母より